

## 中部支部

支部長 松原貴子

中部支部では、例年、6～7月に中部支部総会と研究集会、1～2月に支部研修会を開催してきましたが、昨年度は残念ながら両方とも中止となりました。まだまだ混沌としている状況ではありますが、今年度から2022年開催予定の第46回年次大会にむけて様々な取り組みを開始していきます。

### 【第46回年次大会にむけて】

#### 1. 開催概要（会場に集合する形式の場合）

(ア)会 期：2022年11月26日（土）・27日（日）

(イ)会 場：三重県立総合文化センター

三重県津市一身田上津部田 1234

(ウ)テーマ：「いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？どう支える？～」

#### 2. テーマに関するメッセージ

##### ・三重という「勢の国」にまつわること

いまでこそ、伊勢神宮のある伊勢市という限定された土地を指しますが、本来は三重県のほとんどが「勢の国」です。一般的に、伊勢神宮と呼びますが、実は「神宮（=The 神宮）」です。そこには「常若（とこわか）」という思想があり、常に若々しい状態を保つということです。神道では「死を忌み嫌う」といった解釈もあるようですが、本来は、老いる・朽ちるなどを避けるのではなく、当たりまえのものとして捉えます。いのちが有限であるがゆえ、断絶しないよう技術や知識も次の世代に伝承していこうとする思想が根底にあります。家族という血のつながりだけでなく、地域そのもの、そこにある文化や思想、ありとあらゆるものを受け取り次につないでいくことの大切さを知り、次に受け継いでいくからこそ、常に新しい息吹とともに生き続けることができるのです。

看取りも、「息を引き取る」と表現するように、次世代が引きつぐと読むこともできます。大きな自然・長い歴史の中での一人の人として、なにを受け継ぎ、次にどのように引き継ぐのかは大きな命題と考えられます。

##### ・いのちをつなぐ

いのちにまつわるつながりは、時間軸の中でのつながり、同じ時間を過ごすものとして社会の中でのつながり、場所のつながりなど、さまざまあり、きっと、死をも超えたつながりになるでしょう。その中で、伝える、伝わる、もしくは、伝わっていくものは、文化や思想、知識、技術、道具・方法など数えきれないものがあるでしょう。

コロナ禍という未曾有の体験を通して、「死の臨床における真の人道的支援」も、新しい生活様式の中での形を模索していく時代となったと考えます。この危機をチャンスに変える意味でも、「さまざまな命の終わりを見つめ、QOLとQODを考える」ときを持ってはどうかと考えています。年次大会では、ひとりのひとが死を迎える際に焦点を向けてみたとき、「誰と誰がどのようにつながるとよいか」「いつかは死を迎える「私」としては、何をどのようにつないでいけばいいのか」を考える場になることを願っています。

## 【活動報告】

### 1. 支部世話人会・総会

対面での開催は見送られ、メール・書面での決議となりました。

### 2. 実行委員会の立ち上げと企画の検討

実行委員コアメンバー（大会長 2 名、実行委員長・副委員長 2 名、前回大会の大会長）に加え、中部支部世話人、そして、会場となる三重県内の様々な分野・職種の方からなる実行委員会を結成しました。オンライン会議にて、大会テーマに沿って多種多様な企画・プログラムを検討しています。新型コロナウイルス感染症による影響がどうなるか、予測が困難なため、①対面集合型式、②オンライン形式、③両方を組み合わせた Hybrid 形式など、様々な形態に対応することを想定したプログラム作りに取り組んでいます。

### 3. 年次大会プレ企画の計画と実施

年次大会実行委員会が出た企画の中からプレ企画として今年度研究集会として講演会の実施、ワークショップを企画することになりました。

## 【活動予定】

### 1. 年間世話人

今年度、46 回年次大会にむけてのプレ企画を実施していくこともあって、今年度担当世話人は、辻川真弓氏（三重大学医学系研究科看護学専攻）をお願いすることになりました。

### 2. 第 26 回研究集会

会 期：2021 年 9 月 5 日（日）10：30～12：00

方 式：オンライン開催（zoom ウェビナー）

プログラム：

10：30～10：35 開会の挨拶

10：35～10：50 第 46 回死の臨床研究会年次大会開催準備のご報告

中部支部長 三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター 松原貴子

第 46 回年次大会テーマ「いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？ どう支える？～」を紹介し、大会趣意・現在の準備状況を報告します。

11：00～11：55 講演 「社会的苦痛の緩和ケアと社会的処方（仮）」

講 師：川崎市立井田病院緩和ケア内科／一般社団法人プラスケア理事

西 智弘先生

つながり～「枠を超えてゆるくつながる」をコンセプトとして、地域が「病気になっても安心して暮らせるまち」になることを目指した活動を展開している西先生に講演をお願いしました。イギリスではじまった「社会的処方」は、身体やこころを病んだ患者に、家庭医が薬を処方するだけでなく、その人に合った地域交流を紹介する取り組みです。日本での先駆的な取り組みを紹介していただきます。

11：55～12：00 閉会の挨拶

### 3. 第20回研修会（予定）

会 期：2022年2月20日（日） 時間の詳細は未定

方 式：オンライン開催（zoom ミーティング ブレイクアウトルーム機能を使用）

内 容：講義とグループワーク 計4時間

「(仮) 臨床倫理－オランダの対話的技法 MCD (moral case deliberation) を紹介しつつ」

講 師：服部 健司（群馬大学大学院医学系研究科医学哲学・倫理学分野教授）

四分表、臨床倫理委員会、倫理コンサルタント。米国発祥のこの3つが世界標準であるかのように見られがちですが、欧州北西部ではそれらとは対極的な方法（MCD）が盛んです。その特徴、手順と柔軟な使い方、本邦の臨床現場に導入するための工夫の仕方を、ケース検討を通して学びます。

#### 【入会のご案内】

中部支部では、随時新規会員を受け付けております。下記の事務局連絡先に、中部支部入会とし、お名前と連絡住所をメールもしくはFAXしてください。追って、申込用紙を返信いたします。

中部支部入会金：1000円 中部支部年会費：1000円

○問い合わせ先○

〒504-8601

岐阜県各務原市蘇原東島町4丁目6-2

公立学校共済組合東海中央病院

TEL ; 058-382-3101 FAX ; 058-382-1762

E-mail: miho.sawai@tokaihp.jp

担当者：澤井美穂